



公益社団法人 日本海員救済会
名古屋救済会病院



ドクターカー・ラピッドカーのご紹介

2022年3月から4月にかけて「一人でも多くの命を救うため：救急医療最後の砦に新たなチカラを」を合言葉にドクターカーとして使用する病院救急車を購入することを目的としたクラウドファンディングを実施いたしました。期間中多くの皆様に応援と激励をいただき、当初の目標額を上回るご支援をいただきました結果、ドクターカーとラピッドカーの2台を購入して運用することといたしました。ラピッドカーは病院から医師・看護師・救命士を現場にいち早く送り届ける車、ドクターカーは救急車タイプで、車内でレントゲンを撮ったり緊急処置をしたりしながら傷病者を現場から病院に搬送します。

コロナ禍における社会情勢や半導体不足、車体の入手困難といった課題を乗り越え、ラピッドカーは2023年12月、ドクターカーは2024年7月に納車されました。

当院の救命救急にとって、病院救急車は長年にわたる念願でした。災害時の医療チーム派遣や病院間の搬送はもとより、通常時の一分一秒を争う救急医療での出動を考えています。2020年12月から当院のERで稼働している先進診断治療システム「ハイブリッドER」と病院前救急を結びつけ、現場からの「攻めの救急医療」を実現できれば、さらに救える命が増えるかと確信しています。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

名古屋救済会病院 院長 北川 喜己

寄附者の皆様、地域の皆様へ

この度は、多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。

また、同時にいただいた応援メッセージにより、我々は非常に温かい気持ちになり、大変はげまされました。

このたび導入したドクターカー、ラピッドカーを用いれば、

病院前での診察、治療介入が可能となりますので、より救命率が向上すると考えております。

これからも地域の救命力向上を目指して頑張っ参りますので、よろしくお願い申し上げます。

ドクターカー 搭載機器のご紹介

外装デザイン

ドクターカー・ラピッドカーともに動脈と静脈をイメージしました。

いち早く患者様のもとへ駆けつける「速さ」を意識し、
流れるようなスピード感も表現しました。



こだわりのポイント



前の車両のミラーから見て読めるように文字は一部反転



ランプなどは愛知県のメーカーのものを採用



ナンバーはどちらも「443」由来は…(ヒント：北川院長)



天井にはヘリ等から見られるように、「エキRC」「エキDC」の文字が入っています。



除細動器

通常のAEDよりも強力な、携帯用の除細動器を搭載しています。心室細動などの致死性不整脈の患者さんを治療する際に、より強力な電気ショックが可能です。



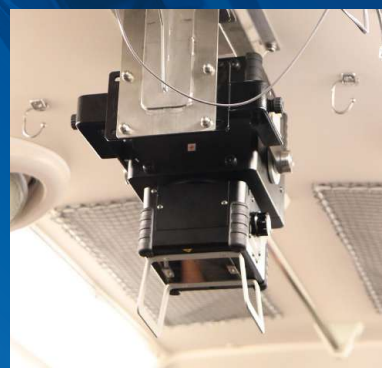
人工呼吸器

呼吸が十分に行えない患者さんに使用するために、人工呼吸器を搭載しています。



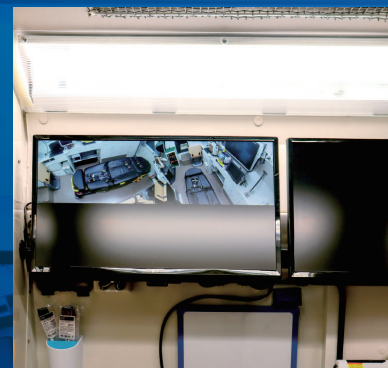
超音波診断装置

心臓や腹部など様々な場所を観察するために、エコー装置を搭載しています。心臓の動きや、腹部での出血、血管の様子などを観察することができます。



単純X線撮影装置

レントゲン装置を搭載していることで、患者さんの状態把握や、医療用デバイスの位置確認などが可能です。



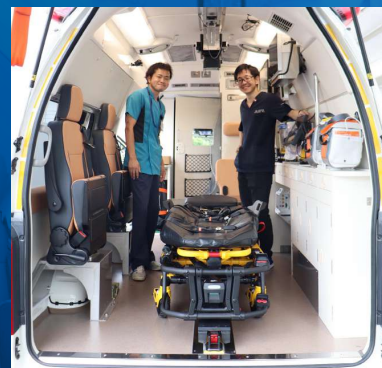
伝送システム

車内での様子やエコー、レントゲン像などを、病院まで伝送することが可能です。これにより、病院側に治療の助言を求めたり、救急車が病院に到着する前に病院でどのような事前準備が必要かを判断したりすることができます。



自動心臓マッサージ装置

心臓マッサージを自動で実施できる装置です。人間では長時間の心臓マッサージでは疲労が生じますが、機械では安定した圧迫が可能です。



電動ストレッチャー

電動で上昇下降が実施できるストレッチャー(患者さんを運ぶ台)を搭載しています。より安全に配慮して、患者さんの移動が可能になります。また、一般的には車体の片側に寄せて配置されますが、当院ではストレッチャーを車体の中央に配置しました。これにより患者さんの両サイドから処置をすることが可能となります。その他、一般的な機能として酸素や吸引の機能があります。

ラピッドカー 能登半島地震支援のため出動

2023年12月末に納車したラピッドカーは、2024年元旦に発生した能登半島地震において医療支援のために出動いたしました。厳しい環境でも活躍できる仕様が活かされ、被災地で活躍しました。

PHEV(プラグインハイブリッド車)

充電スタンドなど外部から充電できるハイブリッド車のこと。モーターだけでなく、ハイブリッド車のようにエンジン+モーターあるいはエンジンだけでも走行することができます。災害時にも電力供給などで貢献できるようにと考え、採用しました。

SUV

体のお腹部分(車体底部)から地面までの高さを指す「最低地上高」が高い車ほど、雪道に強い車と言われています。SUVタイプの車はこの最低地上高が高い車が多く、雪道に強いといえます。この地上からの高さのおかげで、雪の積もった道でもボディの底の部分を擦らずに走りやすくなっています。また、荷物の搭載量を拡充でき、より多くの物品を搭載することができます。



ドクターカー・ラピッドカー スタッフ専用ユニフォームも！

機能面を考慮し軽量かつ通気性の良い素材で、服にはたくさんのポケットが。夜でも安全に行動できるよう、反射テープもついています。背面にはラピッドカーのイラストがあらわれています。

クラウドファンディング実施報告

—たくさんのご支援ありがとうございました—

公開期間

2022年
3月15日(火) 11時～
4月28日(木) 23時

第一目標金額

1,500万円

本プロジェクトは募集終了日までに第一目標金額(1,500万円)に到達しなかった場合、いただいたご寄付は返金いたします。

第一目標
1,500万円

1,500万円達成

特殊な装置の搭載が必要と考えられる症例や名古屋市外へ出動するため「ドクターカー」を購入いたします。

第二目標
2,500万円

2,500万円達成

さらなる地域の救急医療の基盤を作り、迅速な処置に対応するため「ラビッドカー」を購入いたします。

第三目標
4,100万円

4,100万円達成

どんな状況にも対応しうる救命活動を行うために、「ドクターカーの内装費用」に充てさせていただきます。

寄付総額

50,899,000円

寄附者552名(持ち込み分含む)

プロジェクト経過報告

公開期間: 2022年3月15日(火)11時～
4月28日(木)23時

第一目標金額: 1,500万円 3月28日達成

第二目標金額: 2,500万円 3月31日達成

第三目標金額: 4,100万円 4月18日達成

ご寄附のお願い

日本海員救済会は、明治13年に日本の海運界の発展のために設立された日本初の公益法人です。

公益社団法人名古屋救済会病院では、救済(人をよい方へ導き、たすけ救う)の精神に基づき、名古屋市南西部の中核病院として救急医療、先進高度医療を中心に、患者の皆様へ最新最善で安全な医療を提供するために職員一同、積極的に取り組んでいます。この当院の活動に対しご理解とご賛同をいただき、ご支援を賜りたく存じます。皆様の格別のご配慮とご協力をお願いいたします。

税制上の 優遇措置について

当院は公益社団法人であり、「特定公益増進法人」として定められています。
ご寄附をいただいた個人または法人は、税制上の優遇措置が受けられます。

1.個人

所得税の寄附金控除

相続税の非課税特例

個人住民税の寄附金控除(地域により異なります)

2.法人

法人税の寄附金控除所得税、相続税及び法人税の詳細については、国税庁へ、

個人住民税の詳細については、お住まいの都道府県または市町村にお問合せください。

問合せ先・連絡先

名古屋救済会病院 庶務課

TEL **052-652-7711** (代表)

寄附申込書

ダウンロードはこちらから

